



蜂にさされたら



毎年7月から10月にかけて、桜美林大学では蜂に刺される被害が報告されています。スクールバス乗り場付近や旧体育館で刺されたという学生もいます。大学の敷地内は樹木が多く、アシナガバチやスズメバチの巣が見つかっています。夏から秋にかけて蜂に刺されないよう特に注意が必要です。



もしも刺されてしまったら

- ① 身を低くしてその場から離れる。(蜂が興奮すると攻撃する仲間が増えるため。)
- ② 刺された部位を確認し、針が残っている場合は指ではなくピンセットや薄いカードの縁で取り除き流水と石けんで洗浄をする。蜂毒は水溶性なので口で毒を吸い出さないように注意する。抗ヒスタミン軟膏かステロイド軟膏を塗る。
- ③ 氷水や濡れタオルなどで傷口を最大20分程度冷やし、安静にする。刺された部位と全身の症状を注意深く観察する。

【局所症状】 刺されたところを中心にその周りが大きく腫れ上がり、痛みや痒みの症状がでます。腫れた部分は熱感をもち数日程度で消えていきます。

【全身症状】 皮膚症状に始まり、呼吸、循環、神経器官へと広がります。アナフィラキシーショック(即時型アレルギー反応・30分程度以内に発症)によって死に至る危険があります。特に過去に蜂に刺されたことがある人は、『蜂毒によるアレルギー反応』が加わるため注意深く観察をしましょう。

蜂に刺されないために

蜂はいきなり人を攻撃するわけではありません。蜂に刺されないようにするために行動や服装に気を付けましょう。

- ・ 蜂を手やかばんで振り払わない。
- ・ 蜂を見つけたら身を低くしてその場から離れる。
- ・ 黒色のものを攻撃する習性があるため、蜂がいそうなところでは黒色の服は避ける。
- ・ 香水や飲料に気を付ける。(香水や飲料の甘い香りや柑橘系の香りに攻撃されやすい物質が含まれています)

大学構内で蜂を見かけたら慌てず騒がずそっとその場から離れましょう。蜂の習性をよく理解し、行動・対処をしましょう。

全身症状(臓器別症状)

皮膚症状(全身)

じんましん・かゆみ・皮膚の赤み

粘膜症状

唇・舌・口の中などが腫れる

呼吸器症状

息苦しさ・ゼーゼー、ヒューヒューする、呼吸困難

循環器症状

動悸、胸が苦しくなる、血圧低下、脈が弱くなる

神経症状

痙攣・意識障害・冷汗・脱力感、失禁

救急車要請！すぐに受診を！！